

キウイフルーツ（殺菌剤・殺虫剤） 指針採用農薬一覧表

病害虫名 農薬名(商品名)	果実軟腐病	花腐細菌病	貯蔵病害 (灰色かび病)	かいよう病	カメムシ類	キイロマイコガ	クワシロ カイガラムシ	スカシバ類 (キクビスカシバ)
ICボルドー66D				●				
アグリマイシン100		●		●				
アグレプト水和剤		△		●				
アグロスリン乳剤					△	△		●
アディオン乳剤					●	●		
アドマイヤーフロアブル					●			
アブロード水和剤							●	
アリエッティ水和剤	●							
カスミン液剤		△		●				
カスミンボルドー		●		●				
銅パーシン水和剤		●		●				
コサイド3000		●		●				
コルト顆粒水和剤							●	
ストロビードライフロアブル			●					
ダコニール1000	●							
銅ストマイ水和剤		△		●				
トップジンM水和剤	●							
トランスフォームフロアブル							●	
フェニックスフロアブル						△		●
フロンサイドSC	●							
ベルコート水和剤	●		●					
ベンレート水和剤	●							
マシン油乳剤95							●	

●：指針採用、△：指針には採用していないが登録がある

キウイフルーツ

(1) 果実軟腐病 *Botryosphaeria dothidea*, *Diaporthe* sp., *Lasiodiplodia theobromae*

(生態と防除のねらい)

① 主感染期の6～7月の防除に重点をおく。

② 薬剤防除のみでは高い防除効果は、期待できないので、袋掛け（6月中旬）などの耕種防除を併用する。

③ 越冬伝染源（果梗枝、剪定枝、枯れ枝）を園外に持ち出し、処分する。

④ 樹体各部に菌が付着生存しているため、薬剤散布時は枝幹にも散布する。

⑤ 追熟温度が高いほど果肉硬度や酸低下が早められ、発病が促進されるので、追熟温度は15℃以上にならないようにし、無理な期間短縮を行わない。

FRACコード		農薬名		毒性	備考
	商品名		一般名		
M05	ダコニール1000		TPN水和剤	普	
M07	ベルコート水和剤		イミノクタジナルベシル酸塩水和剤	普	
1	トップジンM水和剤		チオファネートメチル水和剤	普	本剤を使用した場合はベノミルを含む剤を使用しない。ただし、塗布処理は除く。
1	ベンレート水和剤		ベノミル水和剤	普	本剤を使用した場合はチオファネートメチルを含む剤を使用しない。ただし、塗布処理は除く。
29	フロンスайдSC		フルアジナム水和剤	普	
P07	アリエッティ水和剤		ホセチル水和剤	普	

(薬剤使用上の注意事項)

※ 同一系統薬剤の連続使用は耐性菌が生じるおそれがあるので避ける。

(2) 花腐細菌病 *Pseudomonas marginalis* pv. *marginalis*, *Pseudomonas syringae* pv. *syringae*, *P. viridiflava*

(生態と防除のねらい)

① 3月上旬には、芽の表面及び内部に細菌が観察される。

② 菌接種による感染は、4月中旬から始まる。

③ 発生には、年次変動が大きく、特に開花期の気象条件に左右されやすい。

④ 休眠期（3月）と花卉出現期～開花直前の防除が重要である。

⑤ 環状剥皮を行うと発病を抑える。処理時期は、開花3～4週間前で処理幅5mmとする。ただし樹勢の弱い樹や幼木には行わない。

FRACコード		農薬名		毒性	備考
	商品名		一般名		
M01	コサイド3000		銅水和剤	普	
24 M01	カスミンボルドー カッパーシン水和剤		カスガマイシン・銅水和剤	普	
41・25	アグリマイシンー100		オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン水和剤	普	

(薬剤使用上の注意事項)

※ 同一系統薬剤の連続使用は、耐性菌が生じるおそれがあるので避ける。

(3) 貯蔵病害(灰色かび病) *Botrytis cinerea*

(生態と防除のねらい)

① 枯死花卉に寄生した分生子が飛散して伝染する。

② 収穫前3～7日の防除が重要である。

③ 展着剤を加用して、果面全体に薬液がかかるように散布する。

FRACコード		農薬名		毒性	備考
	商品名		一般名		
M07	ベルコート水和剤		イミノクタジナルベシル酸塩水和剤	普	
11	ストロビードライフロアブル		クレソキシムメチル水和剤	普	

(薬剤使用上の注意事項)

※ 同一系統薬剤の連続使用は、耐性菌が生じるおそれがあるので避ける。

キウイフルーツ

(4) かいよう病 *Pseudomonas syringae* pv. *Actinidiae*

(生態と防除のねらい)

- ① 枝、幹、新梢、葉、蕾、花において症状が確認されており、2～4月頃にかけて赤褐色や乳白色の細菌液の漏出がみられる。
- ② 春葉では不整形の褐色斑点が認められ、新梢全体が枯死に至る場合もある。花蕾では萼の褐変や腐敗・落下症状を生じる。
- ③ 病原細菌は、春や秋の強風雨によって広範囲に飛散し、気孔や傷口、剪定痕などが重要な侵入口となる。
- ④ 剪定鋏などの器具類や苗木・穂木・花粉等の資材によって伝搬されることが示唆されている。

FRACコード*		農薬名		毒性	備考
	商品名	一般名			
M01	ICボルドー66D	銅水和剤		普	
M01	コサイド3000	銅水和剤		普	
24 M01	カスミンボルドー カッパーシン水和剤	カスガマイシン・銅水和剤		普	
24	カスミン液剤	カスガマイシン液剤		普	
M01 25	銅ストマイ水和剤	銅・ストレプトマイシン水和剤		普	
25	アグレプト水和剤	ストレプトマイシン水和剤		普	
41・25	アグリマイシンー100	オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン水和剤		普	

(薬剤使用上の注意事項)

※ 銅剤は種類によって使用時期が異なり、炭酸カルシウム剤の加用が必要なものもあるため、特にラベルの記載に注意する。

(5) カメムシ類

(生態と防除のねらい)

- ① 発生予察情報を参考に園への初期飛来を見落とさないよう、初期防除を徹底する。

IRACコード*		農薬名		毒性	備考
	商品名	一般名			
3A	アディオン乳剤	ペルメトリン乳剤		普	
4A	アドマイヤーフロアブル	イミダクロプリド水和剤		劇	

(6) キイロマイコガ

(生態と防除のねらい)

- ① 成虫は、6月上中旬と8月上中旬の2回発生し、主に第一世代幼虫が6～7月の幼果を加害する。
- ② 果実が肥大し、お互いに接触し合うようになると被害が多くなるので、この時期以降の防除が大切である。また、果実が接触する前に摘果を終えるようにする。

IRACコード*		農薬名		毒性	備考
	商品名	一般名			
3A	アディオン乳剤	ペルメトリン乳剤		普	

キウイフルーツ

(7) クワシロカイガラムシ

(生態と防除のねらい)

- ① 年三世代を経過し、枝や幹に寄生して樹勢を低下させるが、第三世代は果実に寄生する。
- ② 第一、第二世代の幼虫発生期である5月下旬、7月中下旬が防除適期である。
- ③ 冬季の粗皮削りは越冬密度の低下と薬剤の防除効果を高める上で重要である。

農薬名		毒性	備考
IRACコード	商品名		
16	アブロード水和剤	普	登録はカイガラムシ類幼虫
4C	トランスフォームフロアブル	普	登録はカイガラムシ類
9B	コルト顆粒水和剤	普	登録はカイガラムシ類
UNM	マシン油乳剤95	普	登録は落葉果樹（ぶどうを除く）カイガラムシ類

(8) スカシバ類（キクビスカシバ）

(生態と防除のねらい)

- ① 年1回発生し、前年秋に産み付けられた卵が4月頃ふ化し新梢に食入する。
- ② 幼木の場合は主幹部であっても食害を受けることがあり、その場合樹勢が大きく低下し枯死に至ることがある。
- ③ 発芽期の薬剤散布が効果的である。発芽がバラつく場合は複数回散布する。

農薬名		毒性	備考
FRACコード	商品名		
3A	アグロスリン乳剤	劇	
28	フェニックスフロアブル	普	